

私の勇敢な小さな友人倉松のお母さんカタリナサキだ。二人は私のスータンを引っ張りながら「辰はどうしているでしょうか?」「倉松は天主様によくお仕えしているでしょうか」と次から次への彼女たちの質問責めに答えねばならず、参ってしまったと書いておられます。(116頁抜粋要約)当時、神戸に居られたヴィリオン神父様を、私の曾祖母サキが津和野から歩いて訪ねたことから、信念を貫く強さを感じることができます。このサキが育てたノブは、私の生母フィと養母イエ、ほか4人の母親です。

相川豊作と片岡ノブがどのように引き合わされたのか、誰からもその経緯を聞いたことはありません。聞き伝えの話から私が推測するのは次のとおりです。

二人は、ともに津和野の流配者で、艱難困苦を耐え忍び、1873年に牢から解かれるまで信仰を守り抜いて浦上に帰郷しました。当時27歳の豊作は、兄相川友八の家族として浦上山里村里郷字下土井に、一方、20歳の片岡惣市の娘ノブは本原郷字辻に住んでおり、互いの家は離れていました。同じく津和野から戻った友吉の妻トメと惣

市の妻サキは、頼る人を亡くし、残された子らを預かる身の上、どちらも1894年に亡くなるまで、両家は何かと通じるものがあったのではないかと思います。豊作とノブが結婚した日付は分かりませんが、第一子豊松は1876年に生まれていますので、彼等の母親たちが二人の縁をとり持ったのかもしれませんが。

豊作は、剛健な兄友八や忠右衛門に比べ、おとなしく、身体はあまり丈夫ではなかったようです。しかし片岡ノブと結婚して1男5女を熱い信仰をもって養育しました。ノブは、末娘シモを産んで3カ月後、1890年37歳で亡くなりました。容体が悪くなって、蔓で作った野菜籠に乗せられて連れ行かれたノブを見ていた人は、大きな目玉、赤い顔をして手を振っていったと話してくれました。幼かったおフィとおカ子と生まれたばかりのシモは、一本木に住むノブの母おサキばさんの家に2・3年預けられたそうです。豊作は兄友八の娘たちにも助けられながら、男寡で6人の子どもたちを育て上げました。

「父豊作は、子どもたちを家庭祭壇の前に座らせて、自分が朝夕の祈りやロザリオの先唱をして家



恩賜の杖を持つ忠右衛門（金沢行）を囲んで、姪たちが相川イエの庭先に集まる

左から

サナ（豊作とノブの次女）、カ子（豊作とノブの四女）、勝美（豊作とノブの長男豊松の息子）、イエ（豊作とノブの長女）、ユキ（友八とサツの長女：津和野行）、スナ（金沢行き忠右衛門の娘）、フィ（豊作とノブの三女）、忠右衛門（金

沢行）、Sr.平山イセ（平山タメの娘：金沢行きの旅先で1873〈明治6〉年2月17日生、長崎で1953〈昭和28〉年4月6日81歳死亡。赤城墓地）、シモ（豊作とノブの五女）、サク（友八の次女娘、1873〈明治6〉年5月10日生）

族そろって祈る信仰第一の人でした。『履物は揃えて上がりなさい』『火鉢の灰はきれいにしておきなさい』『食べ物は大切に感謝していただきなさい』などと、母親代わりにしつけてくれました。」と、豊作の娘たち、すなわち私の母や叔母たちが語っていました。

また、豊作じいさんは「津和野では誰でもいつもひもじかった。8歳の友八の娘おユキが、おにぎりを貰いに父親友八たちのいる床下を這ってくるので、なげなしのご飯で握り飯を作っておユキを待たせ」とも話してくれたそうです。

最近、私はノブの遺児たちの面倒を見てくれたおユキばあさんのことを時々思い出します。ミサ帰りに土井の川べりを迎える腰の曲がったおユキばあさんの両手には風呂敷包が一つずつ。「おばちゃん、持トカ」と言うと、「ヨカト。よろよろスルケン、わざとサゲトットー」と。103歳になるろう

## 乙女峠で祈る人々 証し人に学ぶ恵みの旅

Srマリア・アンジェリナ・ムデ 聖心の布教師妹会

初めて殉教者の迫害の地に行くことができ、本当にうれしかったです。私にとってこのことは一つの大切な経験です。

緑の山に囲まれている町と、たくさんの古い建物があり、静かな町だと感じました。そして、町の人々は初めて出会う私たちにいつも笑顔で挨拶をしてくれます。短い時間でしたがとても心が温かくなり嬉しかったです。

山根神父様から証し人の話を聞き、そして、乙女峠でのごミサにあずかって、信仰の強い証し人に感動しました。どんな苦しい迫害にも神様への信仰をすてようとはしなかった。特に裸のまま縁側に座らせられたり、寒風にさらされたり、凍りつくような冷水を浴びせられたり、いろんな責め苦にあいましたが、みんな神様への信仰を守るためにこの迫害を受けました。そして一番心に残っているのは、どんな迫害にあっても絶対祈りをやめないことでした。又「モリちゃん」のこともすごく感動しました。まだ小さいですがすごく信仰が強かったです。両親の生き方を見ながら自分も命を落として神様に従います。モリちゃんは神様への信仰と、愛を心の中に大切に持ち続けました。やはり神様の恵みがなければ人間

は何もできないです。

私も証し人達の生き方を学びながら、修道生活の道を歩んで生きたいと思います。どんなことがあっても神様に信頼すると必ず解決することができます。

乙女峠の証し人が一日も早く聖人に加えられますように続けてお祈りいたします。

